

年金業務・社会保険庁監視等委員会（第1回）議事要旨

1. 日時 平成19年7月25日（水）14:00～15:15

2. 場所 中央合同庁舎第5号館16階委員会室

3. 出席者

（委員会）葛西委員長 大宅委員長代理 磯村委員 岩瀬委員 住田委員 村岡委員

（総務省）菅総務大臣 大野総務副大臣 村木行政管理局長 田部事務室長 長屋主任調査員ほか

（社会保険庁）村瀬社会保険庁長官、清水総務部長、青柳運営部長

4. 議事次第

- (1) 委員紹介
- (2) 委員長互選
- (3) 委員長あいさつ
- (4) 委員長代理の指名
- (5) 総務大臣あいさつ
- (6) 委員会の設置等について
- (7) 委員会の運営について
- (8) 社会保険庁ヒアリング
- (9) 自由討議（今後の進め方等について）

5. 会議経過

- 葛西委員が委員長として選任された。
- 葛西委員長から、就任のあいさつがあり、大宅委員が委員長代理に指名された。
- 菅大臣から、以下の趣旨のあいさつがあった。
 - ・ 今回の年金問題では、国民の皆様にご多大なご心配をおかけしている。政府としては、まじめに働いて年金保険料を納めた方には一人残らず対応する、これは当然のことであり、このためにありとあらゆる改革に取り組んでいる。
 - ・ こうした非常事態に当たり、委員会は「年金記録問題への対応」と、「社会保険庁の業務の適正かつ確実な執行」が図られるよう、社会保険庁の業務実施状況を常時監視することを任務としており、総務大臣として何らかの対処が必要と思われる点については、随時、ご提言をいただきたい。
 - ・ 委員には、この改革の推進状況につき、第三者の視点で、国民の目線にたって、業務をチェックをしていただき、改革が着実にできるよう手助けをお願いしたい。
- 委員会の趣旨、業務について、事務室から、資料に基づき説明があった。

- 委員会の運営等について、事務室から、資料に基づき説明があり、議事については、委員会は原則として非公開とし、委員長が委員会開催後に記者会見を行い、議事内容を説明するとともに、議事要旨は速やかに公開し、会議資料及び議事録は原則公開することとされた。

また、委員が日常的な活動を行えるよう、事務室に委員の席を用意することとなった。
- 社会保険庁から、5000万件の名寄せを中心として説明があった。これに対し、以下のような趣旨の質疑応答があった。
 - ・ 5000万件は何か、5000万件は昨年6月に65歳以上で2300万件の未統合があると分かった時に分かっているべきものだったのではないかとこの質問に対し、3億件から統合された2億5000万件の差し引きであり、昨年6月の時点で65歳未満の要件で検索すれば一定の時間で出てきたと思うが、要請がなく、出さなかったが、今年2月に言われて出したとの回答があった。
 - ・ 5000万件という全体像をすぐに見せなかったことで、国民の間にかえって不安が大きくなったのではないかとこの質問に対し、件数の把握よりも、心配を持つ個々の人の問い合わせに答えることを優先し、相談体制の充実に力点をおいていたと回答があったが、委員からは相談体制も重要だが、全体像を見せるのも重要、どちらを優先するというのではなく、両方取り組むべきものではないかとこの指摘があった。
 - ・ 5000万件の実態は、精査する話が2月に出ていたはずだが、5000万件とはどういう中身か、いつごろ把握できるのかとの質問に対し、内容はまだ十分検証できていない、具体的日程もまだ申し上げられないとの回答があった。
 - ・ 過去の無謬性を主張するあまり、現実を明らかにしないのではなく、心機一転し過去を清算する覚悟で臨みたいとの指摘がなされたのに対し、趣旨に沿ってしっかり対応したいとの回答があった。
- 委員から、明日以降可及的速やかに、社会保険業務センターの高井戸・三鷹庁舎を視察してはどうかとの発言があり、翌木曜日に視察を行うこととなった。
- 今後の進め方については、事務室から、当面のスケジュール等について、委員から、第2回委員会での検討事項について、それぞれ資料に基づき、説明があったのに対し、システムに関する担当技術者へのヒアリングや、委員会の会議の場でも問題の詳細を検討することが必要ではないかとの意見が出された。
- 次回の委員会の日程は、8月23日（木）14時から開催予定とされた。

（文責 総務省（事務室））